

に幻覚や妄想の出現が著しくなる場合があります。沈静タイプには、アルコール、睡眠薬、抗不安薬、鎮痛薬、モルヒネ、ヘロイン等が入ります。

覚醒タイプにはコーヒー、覚せい剤、コカイン、MDMA 等が入ります。幻覚、幻想、妄想の世界に浸るタイプには、有機溶剤、ブタンガス、大麻、マジックマッシュルーム、LSD、MDMA 等が入ります。※2

覚せい剤などの薬物乱用は思考や抑制力を低下させ衝動的に自殺や犯罪を引き起こす恐れや、残遺症として抑うつ状態や不眠といった症状が出現すること、大麻や MDMA などの使用でも、うつ病や自殺念慮、幻覚妄想といった症状が出現することがあるため、自殺の危険因子となりうるということがいえます。また、向精神薬の乱用によって、自殺衝動を高める危険性があります。ベンゾジアゼピン系薬物には鎮静効果がありますが、一方で気分が高揚したり、攻撃的になることがあります。攻撃性や衝動性をうまくコントロールできない場合には、攻撃性が自分自身に向いてしまい、自傷行為や多量服薬などの自殺関連行動に結びついてしまう場合があります。向精神薬と向精神薬以外の薬物の依存や乱用が併存している場合には自殺のリスクをさらに高めてしまうという報告もあります。※3

また、アルコール・薬物依存症者は対人関係において孤立しやすく、就労の問題など経済的にも困難な状態に陥りやすい状況にあります。そのため社会的・経済的な問題から自殺に傾く場合も多いのです。

3. 薬物依存症への支援

薬物依存症は覚せい剤や大麻などの違法薬物は刑事処分の対象となります。しかし、刑事処分だけでは、薬物依存症の解決にはなりません。司法機関でも覚せい剤などの薬物治療のプログラムの取り組みを行っていますが、社会復帰後に継続して支援を受けることができなければ、再犯におよんでしまう可能性は高いままです。また、アルコール・薬物依存症者の多くは、うつ病や不安障害などの他の精神疾患を抱えている場合があります。

そのため、薬物依存症の治療や回復において司法機関や医療機関、地域での幅広い理解やケアが必要なのです。

依存症への支援機関として、同じ体験をした当事者(本人・家族)同士が集まり、お互いの体験を安心して語ることが出来る自助グループ、依存症復帰施設などがあります。なお、北海道立精神保健福祉センターでは、薬物依存相談も行っています。

参考・引用資料

※1:内閣府「平成 23 年版 自殺対策白書」

※2:北海道地域依存症対策推進委員会、北海道立精神保健福祉センター「地域で支える依存症からの回復 相談と支援の手引き」

※3 福居顯二 編 (2011)「脳とこころのプライマリケア 8 依存」シナジー

【3】お知らせ

◇ 精神保健福祉センターでは、こころの電話相談を次の時間帯で受け付けています。

月曜日から金曜日 9:00～21:00
土曜日曜祝日(12月29日～1月3日を除く) 10:00～16:00

Tel:0570-064556

※ご相談の電話が集中しますとつながりづらい状態になりますが、ご了承ください。

◇ HP・携帯版 HP をご覧ください

北海道地域自殺予防情報センターの HP を設置しています。最新の北海道の状況を掲載しており、より情報を見やすく、分かりやすくなるよう心がけています。

また、携帯電話で見られる携帯版 HP も設置しています。うつ病や依存症、借金問題についての知識をはじめ、「死にたい」と相談されたときの対応の方法についての情報を Q&A 形式で紹介しています。ぜひご覧ください。

PC 版 HP URL:<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/sfc/jisatutaisaku.htm>

携帯版 HP URL:<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/sfc/i/joukyou.htm>

【4】編集後記

6月には晴れて暖かったり、雨で肌寒かったりと寒暖を繰り返しながら、少しずつ初夏の訪れを感じられる季節になってきました。季節の変わり目、体調など崩さぬようご自愛ください。

これからも「Andante」のご愛読を宜しくお願い致します。

次号 Vol.37 は、2012年7月末に配信予定です。

＊お問い合わせ先＊

北海道立精神保健福祉センター
札幌市白石区本通16丁目北6番34号

Tel 011-864-7121

Fax 011-864-9546

URL <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/sfc/>

Mail hofuku.seishin1@pref.hokkaido.lg.jp